

参考資料 10 学童期における精神保健

学童期における発達課題などについて関係のあるところを「中央法規出版 精神保健福祉士講座 精神保健学、編集 精神保健福祉士養成講座編集委員会、2005/10/25 初版第9刷発行」より抜粋しました。

(以下抜粋)

人間が人間の特性に従って社会的人格を発達・成熟させていく過程で、必要不可欠とも考えられる課題で小学生時代に感受性が豊かに働いて習得されなければならないものを、エリクソンは「勤勉性」(industry)と呼んで重視している。

家族、仲間、学校、社会など周囲からの文化的要望に従って適応行動をとることであり、社会的人格形成の基盤を発達させるものである。自分の主張と欲求の調査を図りながら、社会的要請に応えていくことのなかで発達や習得が可能になるものである。

この過程を順調に発達させていくために、学童期の子どもは友達を必要とする。／・・・中略・・・／仲間から学び、仲間に教えるという不十分なままで、人間は社会的に勤勉に生きる為の人格を獲得していくことが非常に困難であることを、エリクソンは警告している。

小学生時代の子どもにとって最も大切な友達との体験は、対等な人間関係を営みながら、多様なことを教えられたり教えたりし合うことである。親や親的な人によって育てられた他者への信頼感情(基本的信頼)を基盤にして、他者との恐れのない人間関係を十分に体験しあうということである。対等の同じ目線に立つことができる、優越感や劣等感のない、与えているものと与えられているものが等価なことを実感しあえる、真の人間関係を多様に豊富に体験することは、この時期を逃してはほかにない。

／・・・中略・・・／

学童期の子どもにとって、友達との遊びが精神保健にもたらす意味の大きさは、ほかに比較するものがほとんどないほどである。／・・・中略・・・／子どもたちの遊びには、人間が社会的に生きていくための知恵や力を育む要素が無限にある。この時期の子どもにとって社会的人格を形成していくための過程に仲間や友達との遊びが不可欠といえるほどの意味を持つのは、こうした理由による。子どもたちは、規制、役割、義務、責任、感動、共感といった人間的な感情とともに、倫理性や道徳感情をこのようにして習得していくのである。

.....

上記に抜粋している部分で述べているように、学童期における遊びというのは、大人が仕事の休みに遊ぶというのとは、意味が違います。また、4年生になったら、一人で留守番出来るとか、塾にいかせて対応出来るとか理屈を述べても、子どものこの時期に大変重要な遊びが欠如し、コミュニケーション能力、すなわち社会適応能力を伸ばす時期を、逃してしまうことになりません。

それゆえ、学童保育に携わる指導員の先生がたには、発達課題に応じた遊びの支援やその一人一人の抱える生活背景に応じた適切な支援が必要となってきます。専門性が必要といわれる理由の一つだと私は、考えます。

指導員の方が安心して働きその専門性を発揮していく為にも、職場環境の改善が必要です。支援をしていくには、それなりの計画も必要になってきます。打ち合わせや記録、様々なことが必要になってきます。そうした、時間もきちんと確保され手当てが出されないと、行き当たりばったりの活動になってしまうと危惧してなりません。そして、資格を持った指導員にはそれなりの待遇がないと、やる気も失せると思います。ボランティアでは、食べてはいけません。専門職として働ける環境が必要です。結局は、被害を受けるのは、子どもたちなのです。